

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100867		
法人名	社会福祉法人 愛誠会		
事業所名	グループホームあそだ		
所在地	熊本市北区麻生田2丁目5番41号		
自己評価作成日	令和4年7月1日	評価結果市町村受理日	令和4年10月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/43/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和4年9月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症があってもその人らしい生活が出来るよう、それぞれの生活ペースを考えたケアや環境作りを行い、個性や人間性を尊重しながら日々の支援を心がけています。事故・感染予防、安全で安心できる生活環境の提供に努め、行事・余暇活動の充実により楽しく生活を送れるホームを目標としています。  
ホーム理念(入居者様が地域住民として地域の皆様方に親しまれるように、地域に貢献し、笑顔で安心して楽しく生活を送れる施設作りを行います。)実現のため職員一丸となって支援致します。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設時から法人の建学の精神である「愛情・真心・慈しみ・いたわる心」を旨として、スローガンとともに毎月目標を掲げ、コロナ禍という厳しい状況に感染症予防に一致協力しながら、入居者の生活を支援している。入居者の入れ替りの多い年でもあるが、自粛生活の息苦しさを忘れてもらう工夫が随所に現れている。ユーチューブの活用や、法人との連携した食支援は入居者の外出の一環として生かすとともに、午前・午後のレクレーションを充実させており、歌声の絶えない明るいホームが形成されている。毎月の家族への報告書は情報発信や安心感として生かされており、運営推進会議の再スタートに向け、地域包括支援センター等との話し合い等検討いただき、これまで築き上げてきた地域の中での生活が更に深まることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念はスタッフ室の壁に掲示し、いつでも確認できるようにしている。	法人の理念を継続している。スタッフは経験も長く、建学の精神及び職員のケア姿勢を示す運営訓を理解して日々のケアに当たっている。コロナ禍の中で職員が一堂に会する事は難しい状況であるが、法人のスローガンとともに毎月目標を掲げている。	職員が目指すケアを掲げるなどグループホーム独自目線での目標を検討されるを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響で外部との接触を禁止している為できていない。	自治会に加入し、回覧板の受渡しはあるが、コロナ感染対策として地域との交流等外部者との関係は持っていない。	コロナ感染症に収束が見られれば、これまでの関わりのある校区のネットワークの会やボランティア等の活用等検討いただき、交流の再開に期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学を2名までとし、事業所の説明や対応など分かりやすいように説明するよう心がけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染増にて現在、中止となっている。	コロナ感染症拡大という状況に、運営推進会議は開催していない。	対面での開催が難しいのであれば書類(報告書等)を作成いただきたい。運営推進会議委員へ報告書を2ヶ月毎に配布されることが望まれる。まずは、書面審査から再スタートされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談専門員派遣事業の利用。地域包括支援センターささえりあ担当者へ運営推進会議にて事業所の現状をお伝えしている。また協働して地域行事に取り組んでいる。	介護相談員派遣事業の中止や運営推進会議も開催が出来ておらず、行政との関係は希薄化している。入居相談等、地域包括支援センターとの関係は築かれており、運営推進会議の開催に向けて地域包括支援センターに相談されることが望まれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ間で行うミーティングや地域運営推進会議にて身体拘束に関わる事業所の取り組みを説明している。	拠点内法人での研修に参加し拘束等の意識強化を図り、検討部会で入居者個々の事例を話し合っている。転倒事故や転倒リスクの高い入居者には家族の承認を得てセンサーの利用、離設によるセンサー取り付け及び所在確認を徹底することとしている。法人全体で7つのゼロ(拘束・転倒・褥瘡・誤嚥性肺炎・脱水・寝かせつけ・オムツ)を掲げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	ホームで月に一度開催されている検討部会・グループミーティングにて関わる事故の周知と基本的知識習得のために定期的に時間を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人拠点内の勉強会、スタッフ間ミーティングにて左記内容を学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項に関わる内容を説明している。 改定時には変更合意書を発行し、御家族様へ郵送している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケート用紙、意見箱を玄関に設置している。また面会時に御家族様と話す時間を設けケアに活かしている。頂いたご意見に対し適宜ケアに反映させている。	玄関に意見箱を設置し、面会時に意見等を聞き取る他家族との意見交換の場としている。毎月支援シート(バイタル・水分確保量・入浴や排泄等)に職員のメッセージを発信し、コロナ禍で容易に訪問できない家族への情報発信や安心へと繋げている。職員の異動等も家族へ発信されることを望みたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度、管轄の施設長をはじめ事業所管理者、職員が集まり会議を開催している。別に事業所の職員だけの集まりもあり、そのなかで意見交換がなされている。	朝からの申し送り時のミーティング、申し送りノートを活用した情報の共有、毎月の検討部会での意見交換、法人内研修時等意見交換が行われている。又、法人内管理者会議等も行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は日頃より一人ひとり評価し、普段の頑張りや給与等に反映されている。毎月一度ミーティングが開催され、上記同様意見交換が行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人拠点ごとに毎月研修会が開催されている。また事業所内においても月に一度認知症ケアに関する勉強会を実施、自己啓発活動も推進している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月一回、各事業所参加し、合同勉強会を行っている。また、スポーツクラブを開設しバレーを行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス内容を細かにお伝えし、御本人様にもホーム見学いただけるようアプローチや面談では時間に縛られず納得いただけるまで話を伺うよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回時、本人様と家族様に聞き取りを行いニーズ対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人様、御家族様の話を伺いながら当事業所の利用も含め適切なサービスの助言を行っている。入所者様の口腔ケア向上のため、訪問歯科を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	フェイスシートの情報と普段の御様子をしっかり観察、情報共有することによりコミュニケーションを充実させ、密な関わりをもてるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御利用者様と御家族様が共に過ごす事が出来る行事を企画したり、面会や担当者会議など事業所・御利用者様との関係が疎遠にならないよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前に仕事で付き合いがある方が面会でお越しになられる。外出は中々できていないがホーム近隣の方とボランティアの受入や行事参加により繋がりが生まれ新たな関係ができています。	毎週訪問される家族、親類からの電話等はあるが、馴染みの場所との関係は支援は難しい状況にある。正月の自宅への外泊等家族の支援を受け、近くの神社への初詣等を支援している。入居者との日々の関わりの中で、昔のことを把握している。入居者同士や職員との馴染みの関係が構築している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	なじみの関係や身体レベル等を考慮して現在の席を設けている。認知症を理解し御利用者様の動きながらトラブル回避できるよう対応に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要時には相談・支援できるよう、ホーム内における連絡体制を構築している。(管理者への報告)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	パーソンセンタードケア、ユマニチュードの考え方を伝達し、利用者視点・本位のケアを行えるよう勉強会を実施しケアプランにも反映させている。	日々の関わりの中で入居者の思いを把握したり、自分の言葉で思いを発する方等一人ひとりの性格等を把握し対応している。居室からの入居者の声に対応したり、表情を把握し、本人本位になるよう検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートで不足している情報は随時カンファレンス等で御家族様と関わる際にお聞きして更新している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	確実な申し送りと各担当、専門職が連携して左記内容を含めた情報の共有ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に本人様、御家族様のニーズを確認して、状態に合わせたプラン内容の更新と担当者会議を開催している。また、三か月にモニタリングを行いプランの見直しをしている。	入居時にまずはこれまで利用されていた施設のプランを参考に、入居者と職員との馴染みの関係づくりを中心としたプランを作成している。家族へプランを説明するなかで、希望等を聞き取りし、援助方針の中に朱書きによる追記を行い、本人・家族の意向をプランに反映させている。毎月の検討部会の中で状態変化等職員の観察・気づきを話し合い、3ヶ月毎にモニタリングを行い、必要時には新たなプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録には普段の様子もだが、プランのモニタリングとしての機能も含め記録をするよう周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日用品購入、気分転換のための外出等、その時々訴えに可能な限り対応した支援を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	神社等に赴き、その時々行事に参加させていただいている。地域交流といった楽しみをもった生活の支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必要時には御家族様の代理で受診を行っている。状態変化時は主治医へ連絡し指示を受けるようにしている。	本人・家族の希望するかかりつけ医への受診を基本的に家族が、困難な場合はホームで支援し、結果を共有している。受診には看護職員による情報提供書を準備し家族に渡している。歯科については必要な方のみ、家族の同意のもと治療が行われており、職員は食後の歯磨きや義歯管理など個々に応じて支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り、引継ぎに関するノートやケース記録への記入により情報共有を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期受診時に日頃の御様子を逐一報告している。入院時には情報提供を行い、また退院される際には引継ぎを受け、相互の情報共有に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末期ケア対応指針を入居契約時には説明し、意向の確認を行っている。担当者会議毎にも意向を尋ね、変更時は全職員へ伝達している。	重度化・終末期に関するホームの対応指針を作成し、契約時に説明を行っている。可能な限りホームでの最終を望まれる家族もあるが、介護度が高くなった場合など特養への入所を希望されている。また、入居時から特養を申し込まれている方もおられる。終末期支援に関して研修の機会は持たれていないが、今できる支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故・急変発生時のフローチャートを活用している。緊急対応や事故に関する研修会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時の避難訓練を日中想定、夜間想定のパターンで実施。地域の防災訓練にも参加している。	この一年では、防災業者の参加のもと、日中・夜間を想定した火災時の避難訓練を実施し、消火器の使用方法なども学んでいる。備蓄は法人栄養科と連携し、リストを作成し、水やレトルト食品などを備蓄している。以前は地域の防災訓練にも参加していたが、コロナ禍により現在は実施されていない。	今後は自然災害を想定し、机上を含めた訓練の実施に期待したい。また、コロナ収束後は地域との協力体制を検討いただきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	前回指摘をいただいた居室入室時の声かけやノックについて改善みられている。他にも態度や言葉遣いについても不適切な言動であった場合は職員間で注意しあっている。	入居者のプライバシーや尊厳への配慮に欠けるような対応が見られる場合や、気づいた時は職員間で注意し合える関係性にある。現在は外出の機会も少なく、ホーム内での生活が殆どであり、個々に応じた居場所作りや、ペースを尊重した支援に努めている。衣類の選択も確認しながらサポートしている。	玄関に置かれた訪問者記録は、個人情報観点からも個別記入など検討されることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動や考えを押し付けたり無理強いすることなく、御本人様の思われるペースで過ごせるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の暮らしについて希望を事前にお聞きした上で、表情や動きで思いを察知し、その日その日の状態に合わせた言葉かけやケアを行うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアの更衣時、入浴時の着替え等、本人様と選び必要時はアドバイスをを行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	御利用者様には食事の盛り付けや食後の片付けの手伝いをお願いしている。月一回行事食提供し季節を感じて頂いている。	朝食と主食のご飯はホームで調理し、昼・夕の主菜や汁物、おやつなどは法人厨房に受け取りに入居者も同行されている。また、敷地内で育てたニガウリを職員が調理した一品は入居者に喜ばれている。職員は持参した弁当などを食べており、検食や同じ食事を摂る機会は持たれていない。ユーチューブを活用し、レクレーションとしておやつがクレープの時は、クレープ作りの光景を流すなど職員の工夫が聞かれた。	行事食として毎月提供されているが、更に入居者と食を楽しむことができるような取り組み(ホットプレートを活用したおやつ作り等)に期待したい。また、入居者の代弁者として、味の感想などを厨房へ伝えられるよう、検食を兼ねて1名でも同じものを食べてみることを検討いただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食席を考慮し、食べやすいよう自助具の選定、食事形態等随時検討している。摂取量を確認しながら利用者様によっては個別で補食・水を購入している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の際に、歯科医師・歯科衛生士より助言をいただきながら口腔ケアを実践している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御利用者様の様子に変化・排泄の予兆を確認した際にお声かけをしたり、食前食後には声かけを行い、日中は出来る限りトイレでの排泄を心がけている。	個々の表情やしぐさなどから察し、トイレへ声掛け誘導を行っている。殆どの方がリハビリパンツにパットを併用されているが、布パンツの着用や、ベッドの生活が中心の方はオムツを使用されている。排泄用品については、適切なものを検討しながら、ホームで準備しており、家族へも毎月排泄状況を報告している。夜間などに使用される方のポータブルは清潔に管理している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、食事水分摂取を確認しながらDr指示にて適切な排便コントロールを実施中。尿便意があいまいな方でもトイレ便座に腰かけて頂いたり、腹部マッサージ等も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2、3回の間隔で入浴をすすめている。午前午後どちらでも入浴できるよう職員を配置し、希望に合わせて実施している。同性介助にも努めている。	入浴は午前中を基本として、希望時間にも対応しながら1日置きに支援している。ゆっくりとした入浴に努めているが、一般的な浴槽で有り、身体状況からシャワー浴や清拭が中心の方もおられる。入浴の回数などは家族へも報告書の中で伝えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各々のペースに合わせて日中の臥床支援・夜間の就寝ケアを行っている。室温や室内の明るさ、衣類の調整等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各御利用者様の既往歴を把握し、服薬の確認も併せて伝達している。普段の状態変化にも目を配りながら、服薬変更時には注意点を申し送り、様子観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を考慮し、洗濯物たたみや掃除、食器拭き等その方々の能力に応じた役割をもって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物希望される事が多く、御本人様と共に外出し買い物の支援を行ったり、近隣の散歩やドライブ等の要望にも随時対応している。外出先で御家族様や地域の方の支援を受けることもあった。	新型コロナ感染症への対応から外出は難しく、徒歩圏内にある神社に参拝に出かけている。法人厨房への食事受け取りへの同行や、家族とのかかりつけ医への受診が外出の機会となり、外食されたり、正月に自宅へ帰宅が叶う等家族の協力を得ている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様、御家族様の同意の下で現金をお預かりしている。必要時は依頼を受け代理で買い物を支援する事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば御家族様へ本人のお話をお伝えしたり、本人へ代わり電話の応答支援することもある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月毎に創作活動を行い、季節感のある張り紙を更新していた。自然の明るさを取り入れるよう環境に配慮している。	食堂とリビングホールを使い分け、メリハリのある日常になるよう努めており、訪問当日も賑やかな会話や歌声が聞こえてきた。ホーム内は自然の明るさを取り入れ、特に食堂の窓からは車の往来や歩行者の姿も見られ、圧迫感のない空間となっている。感染症への対応から特に換気や掃除、消毒の徹底など衛生面にも十分配慮している。	ホーム内には収納スペースが少ないことから、季節外の物品をはじめ、収納に苦慮されているようである。洗濯物干し場については、プライバシーへの配慮から場所を検討されることを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、リビング、ダイニングの生活空間を駆使し、その方にとって過ごしやすい環境の提供と見守りができるよう職員の配置を都度考えている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた身の回りのものを持参いただき、御本人様にとって過ごしやすい生活空間となるよう環境整備に努めている。	入居時に必要な品や好まれる物を持ってきて欲しいことを伝えており、臥床中心の生活をされる方には、ラジオがあるとよい事など個々に応じてアドバイスをしている。季節外の衣類や普段使用しないものなどはクロゼットに収納しており整理整頓された居室である。仏壇や遺影などが置かれた部屋等入居者個々が過しやすい空間としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行器での移動・車椅子自操がしやすいよう移動空間を広くとり、障害物を取り除く工夫を行った。		